

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-1
多様な自然の保全

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

自然環境課 森脇 幸

電話番号

0852-22-5346

事務事業の名称	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	
目的	(1) 対象	レッドデータ生物
	(2) 意図	多様な種を保護する具体策を検討するための基礎資料とする。
事業概要	絶滅危惧種の保護対策の基礎資料とするためレッドデータブック掲載（予定）種について河川調査を実施する。 「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」で指定している希少野生動植物について、生息・生育環境の保全対策や地元住民等関係者と連携した保護対策を実施する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	調査研究した種の総数	目標値		5.0	5.0	5.0	5.0	種
	式・定義	調査研究した種の総数	取組目標値						
			実績値	5.0	5.0	5.0			
			達成率	-	100.0	100.0	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,168	4,583
うち一般財源 (千円)	2,168	2,159

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 5種類の指定希少野生動植物を対象に希少野生動植物保護巡視員・団体（知事認定：8個人、11団体）が巡視活動を実施した。巡視日数（延べ）117日（前年度124日）になっており、毎年同程度で推移している
- 保護管理計画に基づき保護団体及び関係機関等と共同で保護活動、モニタリング調査等を実施した。
- 河川調査等を実施し26種類（前年度25種類）の魚類を確認し情報を収集した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 希少野生動植物保護巡視員・団体による献身的な巡視活動により保全・保護が図られている。
- ミナミアカヒレタビラについては、H26年度に保護団体、研究機関、行政で設置した保護対策協議会で検討した生息域内・外保存対策を継続して実施しており、絶滅リスクの回避を図っている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 希少野生動植物の調査研究情報は、県、教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等の様々な主体がそれぞれが蓄積している
- 希少野生動植物の減少や自然環境の劣化

②困っている状況が発生している「原因」

- 県において全ての希少野生動植物の調査研究をすることは困難で、各主体の調査研究情報を共有する明確な仕組みがない
- レッドデータブック掲載種など希少野生動植物の保護に係る県民認知度が低い

③原因を解消するための「課題」

- 教育・研究機関、民間研究者、NPO等との調査研究情報の共有が必要
- 自然保護や生物多様性の確保、環境保全に対する県民の意識・関心の向上を図ることが必要

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 県において全ての希少野生動植物の調査研究をすることは困難なことから、教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等と日常的に情報交換できるよう緊密な連携を図り、調査研究成果や知見を共有し蓄積していく。
- 保護管理計画に基づき保護団体及び関係機関等と共同で保護活動、モニタリング調査等を継続して実施する。
- ミナミアカヒレタビラについては「大原川ミナミアカヒレタビラ保護対策協議会」で保護対策等を協議・検討していく。
- 希少野生動植物などの紹介・PRやその魅力発信などを行い、自然や生物を守る大切さなどの普及啓発や情報発信を行う。